

Steelcase がNeoConの50年を祝う

1969年にNeoConがその扉を開けて以来、どのようにオフィスは進化して来たかを見て行こう。

🕒 Read 10分



NeoCon は今年、商業デザイン業界の最も重要な人々を結び合わせて50年の節目を祝う。1969年に1万人に満たない建築家やデザイナーによって上げられたその産声は、今やシカゴのMerchandise Martに5万人を超える専門家を毎年集める程の国際的なデザインハブへと成長した。

1960年代末期以降人々の働き方は進化し、順を追って彼らの職場環境も同じ道を辿った。リーダーシップはより非階級的に、そしてよりコラボレーティブになった。情報の流れは加速し、ビジネスのスピードも同様となる。そして組織は自身を機構であると同時に、ソーシャルネットワークや文化としてみなし始めたのだ。

NeoCon 50年の節目に敬意を表し、[Steelcaseのショールーム](#)を見つける為に、過去何十年の保存記録を私達は掘り進んだ。1969年にNeoConがその扉を開けて以来、どのようにオフィスは進化して来たかを見て行こう。

1970年代

1970年代までには、仕事は個人のデスクで一人でこなすものでは最早なくなっていた。クリエイティブにそしてインベティブになる為に、従業員は多くの専門分野の集うチームで個々の役割機能を超えて働く必要があった。仕事の達成の為に必要な人々と共にいる為、人々はより動き回るようになった。NeoConにおいてSteelcaseは、そこで働く人々とゲストの為に柔軟性を持った座席、及び透明性を持ちながらも空間を分ける新たな方法を紹介した。



1980年－1990年代

1980年代にはコラボレーションとクリエイティビティがその重要性を獲得していった。1990年代までには社会的な関わりとそれらをサポートした空間がより重要視されるようになった。Steelcaseにおいては、自然の素材に刺激を受けたLauren Rottet氏により生み出された新たなショールームが1990年末期にもたらされた。石膏の天井に浮かぶ「雲」とDanpalonによって作られた半透明の壁が、独特の平面と空間に吊るされた特別デザインの照明システムによる照明配置を創り上げた。色彩は、自然の木材の化粧板、及びエレガントな白壁と磨かれたコンクリートの床に輝くブルーのアクセントを通して表現された。



2000年代－2010年代

新しいWorkLifeの意図はSteelcaseのデザインを称える空間の創造と共に、デザイナーや建築家が、Steelcaseの製品を使用して彼ら自身の環境を創り出す方法を明確に視覚化する為の空間を生み出す事であった。（2008年）



現在

2018年、SteelcaseはMerchandise Mart3階の、新たに再デザイン及び拡大されたショールームをお披露目する予定だ。Steelcase Design StudioはShimoda Design Group共同設立者のJoey Shimoda氏と再びタッグを組んだ。新しいショールームはSteelcaseとCoalesse及び Turnstone、そして我々のパートナー達を、人々の働く方法全般をサポートする為に一堂に会し団結させる。



Steelcaseは2018年6月11日から13日のNeoConにおける新たな Chicago WorkLife体験に皆様をご招待する。現在、我々のオンライン [NeoConガイド](#) が閲覧可能である。もしシカゴに来られない場合には、独占 [フェイスブックライブインタビュー](#) やライブツアーをフォローして頂く事が可能だ。